

第1回山梨県立学校いじめ問題対策委員会あいさつ

本日は公務御多用の中、令和2年度第1回山梨県立学校いじめ問題対策委員会にご出席いただき誠にありがとうございます。皆様方には日頃より本県学校教育の充実のためご尽力いただいております。心から感謝申し上げます。

皆様に委員として委嘱・任命させていただくにあたり、本来であればお一人ずつ委嘱状・任命書をお渡しすべきところですが、略式にて机上配付の形をとらせていただきました。任期は二年になりますが、よろしく願いいたします。

県では、公立高校と特別支援学校を対象に「いじめに関する実態調査」を年3回実施しております。その調査結果に基づき、いじめの未然防止と早期発見、そして解決に向けた取り組みについて各学校に指導しています。

学校の臨時休校が続き、今年度第1回目の調査は例年より短い期間についての調査になりました。本日はその調査結果について報告いたしますが、委員の皆様にはご専門の見地から忌憚のないご意見をいただき、本県のいじめ防止や解決に向けた取り組みへのご支援を賜りたいと存じます。

私たちは今、新型コロナウイルス感染に対する不安とともに日々の生活を過ごしています。学校の臨時休校が長期に及び、授業時間の確保のため、夏休みの短縮や楽しみにしていた学校行事の中止など、子どもたちの、そして先生たちの学校生活も例年とは大きく変化しています。

この状況の変化は、学校での様々な問題に対する捉え方に影響するのではないかと感じています。いじめ問題についてこれまで学校では、いじめをなくすことを願って子どもたちに「人を思いやる心」を育てようとするなど、自分自身よりも人との関係を意識した教育活動の計画、指導が中心だったと思います。

しかし今の状況にある子どもたちには、まず「自分を思いやる心」を、という視点も大事ではないかと考えます。自分を思いやるとは自分の納得がいくまでという自分自身の感覚を大切に、たとえば勉強に向かう、部活動に向かう、そういう姿勢です。これは自分を信じ周囲に流されることのない姿であります。

自分を思いやれてこそ人を思いやることができる。自分を信じてこそ人を信じていることができる。そう申し上げたかったのですが、話が迷走しそうです。本日の委員会では、三密を避けるため、私のあいさつは短めにさせていただくつもりでしたが、溢れる気持ちを抑えきれず、申し訳ありませんでした。それではよろしく願いいたします。